

## 平成 23 年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナー

## 開催報告

## 1. 背景

化学物質の内分泌かく乱作用については、平成 22 年 7 月に、環境省の今後 5 年間の対応の方向性として「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応— EXTEND2010 —」を取りまとめ、この新しい対応方針に基づき、化学物質の内分泌かく乱作用に関する各種取組を推進している。

その一環として、環境省では、これまでの取組において実施してきた化学物質の内分泌かく乱作用に関する調査研究等の成果について、専門家や市民の方々へ情報提供を行うことを目的に、平成 22 年より公開セミナーを開催している。

今年度の公開セミナーでは、化学物質の内分泌かく乱作用に係る問題のこれまでの経緯の説明や、EXTEND2010 における現状の取組状況や直近の研究成果の報告、海外の専門家による講演等を行った。

## 2. 概要

- 日時 : 平成 23 年 12 月 3 日 (土) 10:00~17:00  
会場 : 東京国際交流館 3 階 (国際交流会議場) 東京都江東区青海 2-2-1  
主催 : 環境省  
一般参加者数 : 137 名 (応募 171 名)



### 3. プログラム

10:00 開会（環境省）

10:10 化学物質の内分泌かく乱作用に係る問題の経緯と現状について

- 内分泌かく乱作用に係る問題の経緯について

青山 博昭（財団法人残留農薬研究所）

- 内分泌系及び化学物質の内分泌かく乱作用とは

鑑迫 典久（独立行政法人国立環境研究所）

- 環境省による取組の現状について（環境省）

13:30 EXTEND2010 による研究の成果

- EXTEND2010 における研究関連事業の概要（環境省）

13:40 研究成果の報告

- ・アカトンボ減少傾向の把握とその原因究明

上田 哲行（石川県立大学）

- ・海産無脊椎動物ホヤのトキシコジェノミクス研究

安住 薫（北海道大学）

- ・内分泌かく乱作用が疑われる生物蓄積性化学物質の野生生物汚染－新規 POPs による日本およびアジア地域の汚染実態

田辺 信介（愛媛大学）

15:30 海外からの招待講演

- ・ The U.S. EPA's Endocrine Disruptor Screening Program (EDSP)

米国招待講演者

Dr. Leslie Touart (U.S. Environmental Protection Agency, Office of Science Coordination and Policy)

- ・ Environmental Risk Assessment & Endocrine Disrupter Research – A European Update

英国招待講演者

Professor Thomas Hutchinson (Centre for Environment, Fisheries and Aquaculture Science, U.K.)

16:50 閉会

### 4. 内容

- (1) 午前中には、「化学物質の内分泌かく乱作用に係る問題の経緯と現状について」として、2名の研究者から「内分泌かく乱作用に係る問題の経緯」及び「内分泌系及び化学物質の内分泌かく乱作用とは」、が紹介され、環境省より「環境省による取組の現状」の概要を説明した。

(2) 午後からは、環境省より **EXTEND2010** において取り組んだ研究の概要を説明し、主な研究成果として、3名の研究者から成果の概要が報告された。

(3) 引き続き、海外からの招待講演として、米国及び欧州の専門家より各地域での取組状況が紹介された。

## 5. アンケート

出席者より提出されたアンケートの集計結果を添付した。(別紙参照)

## 6. 平成 24 年度の開催

平成 23 年度のアンケート結果等を踏まえ、内容等について一部見直しを行った上で、平成 24 年度も公開セミナーを開催することを検討する。

## 7. 平成 22 年度に開催したセミナーの概要

名称： 平成 22 年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナー

－ExTEND2005 から EXTEND2010 へ－

日時： 平成 22 年 12 月 15 日 (水) 10:00～16:40

会場： 東京大学山上会館大会議室 (2 階) 東京都文京区本郷 7-3-1

一般参加者： 114 名 (応募 191 名)

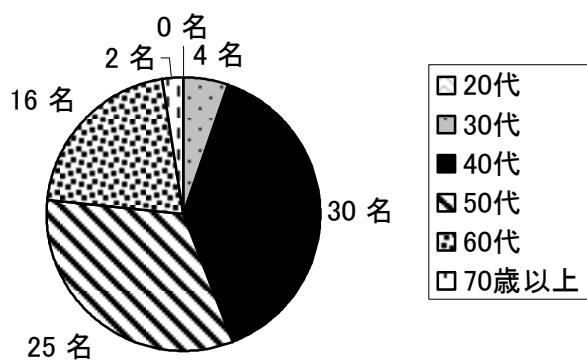
### プログラム

- 開会 (環境省)
- 第 1 部 ExTEND2005 における取組み
  - ・ ExTEND2005 において取り組んだ研究の概要 (環境省)
  - ・ 野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析：  
濱口 哲 (新潟大学)
  - ・ メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究：  
長濱 嘉孝 (自然科学研究機構基礎生物学研究所)
  - ・ 核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構：  
岩崎 俊晴 (群馬大学)
  - ・ 哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解析：  
青山 博昭 (財団法人残留農薬研究所)
  - ・ 都市排水に由来したエストロゲン類の汚染と動態：  
田中 宏明 (京都大学)
- 第 2 部 EXTEND2010 と内分泌かく乱作用に関する取組みの今後の方向性
  - ・ 化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応：EXTEND2010 (環境省)
  - ・ 生物の試験法開発に関するこれまでの成果と今後の課題：  
鑪迫 典久 (独立行政法人国立環境研究所)
  - ・ 生物に対する内分泌かく乱作用に関する調査研究の動向と対応の方向性：  
井口 泰泉 (自然科学研究機構基礎生物学研究所)
  - ・ ヒトに対する内分泌かく乱作用に関する調査研究の動向と対応の方向性資料：  
遠山 千春 (東京大学)
- パネルディスカッション

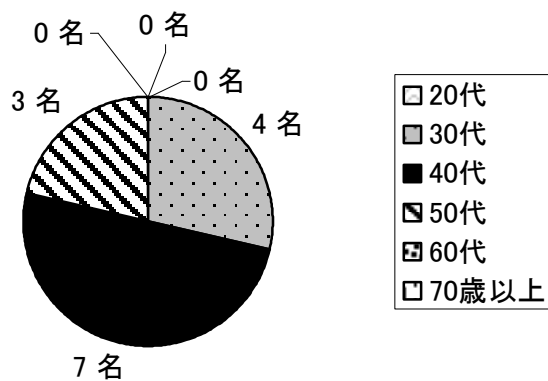
I. 貴方の属性に関する以下の質問について、該当する番号に○を付けてください。

Q1 あなたの性別を教えてください。(回答数 91 無回答 1)

Q2 あなたの年齢を教えてください。(回答数 91 無回答 1)

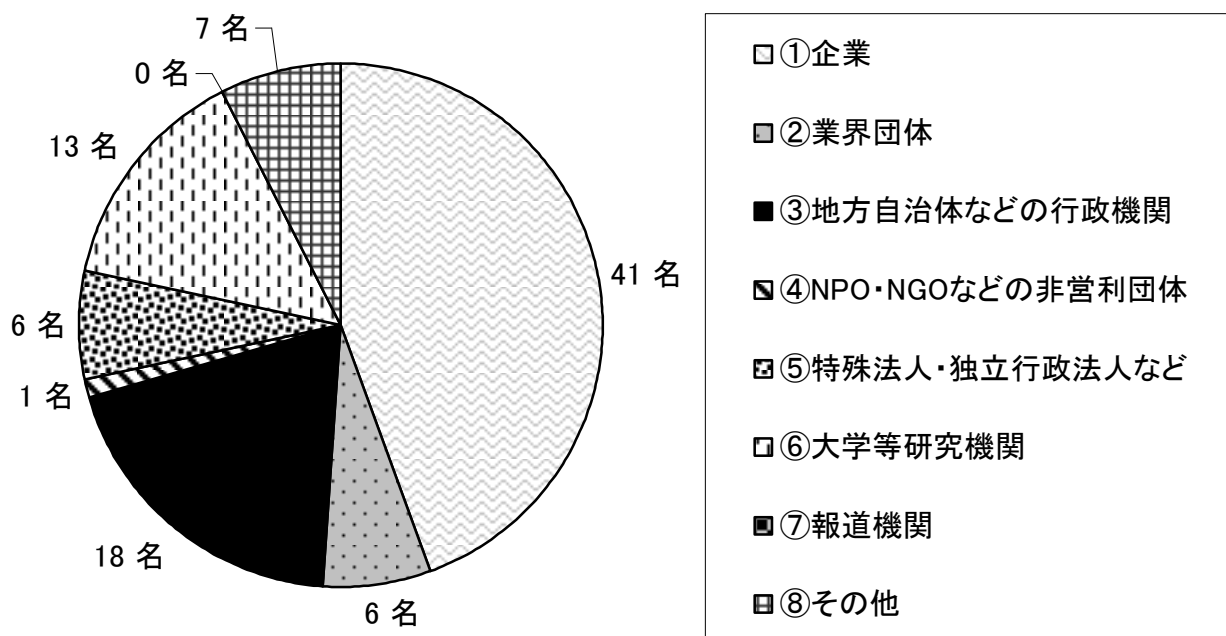


男性 78名



女性 14名

Q3 ご所属を以下からお選びください。(回答数 92)



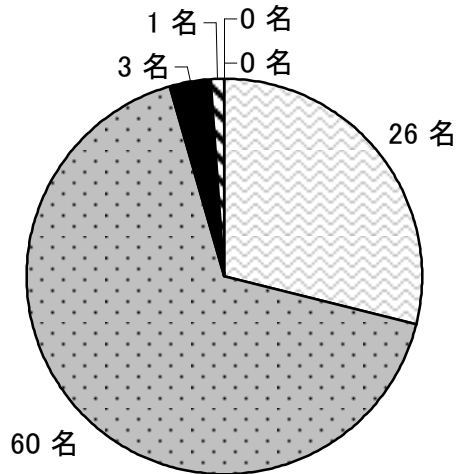
⑧その他の回答

自営業：1名、独立法人：1名、研究調査：1名、個人研究：1名、嘱託勤務者：1名、コンサルタント：1名、未記入：1名

II. 今回開催したセミナーに関する以下の質問について、該当する番号に○を付けて下さい。

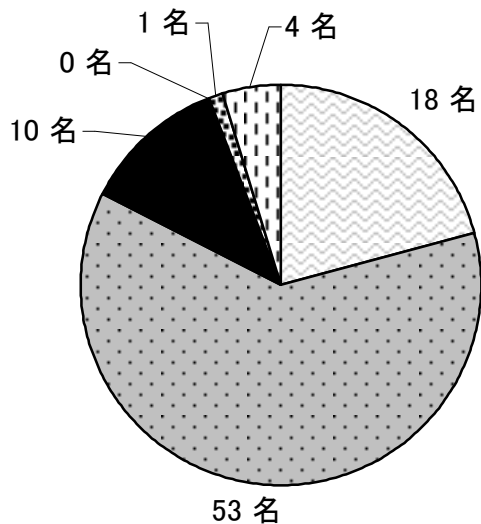
Q4 講演の満足度をお答えください。

Q4-1 化学物質の内分泌かく乱作用に係る問題の経緯と現状について  
(回答数 90 無回答 2)。



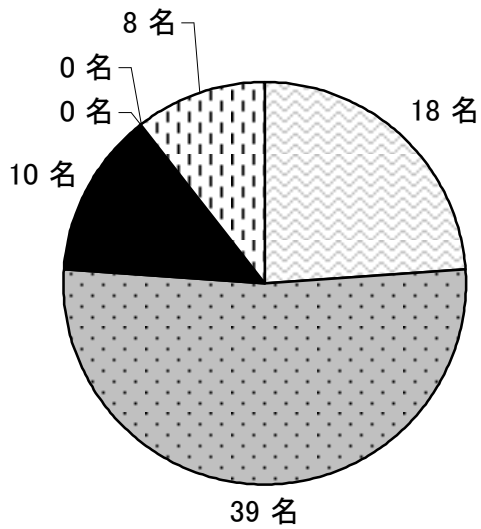
- ①大いに役に立った
- ②役に立った
- ③どちらとも言えない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤役に立たなかった
- ⑥不参加

Q4-2 EXTEND2010 による研究の成果 (回答数 86 無回答 6)。



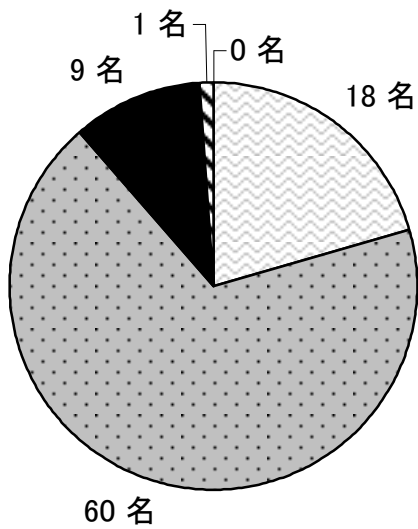
- ①大いに役に立った
- ②役に立った
- ③どちらとも言えない
- ④あまり役に立たなかった
- ⑤役に立たなかった
- ⑥不参加

Q4-3 海外からの招待講演（回答数 75 無回答 17）



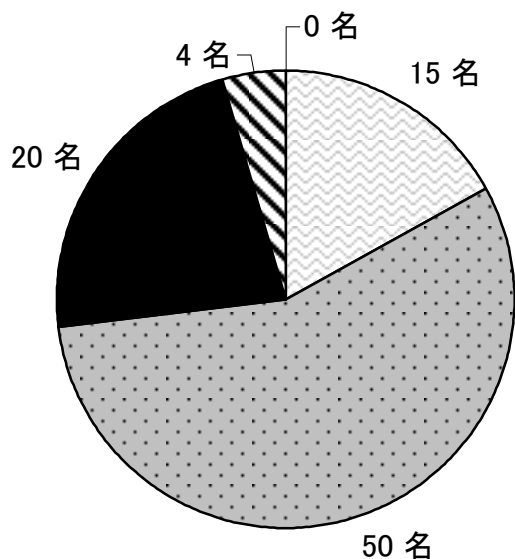
- ① 大いに役に立った
- ② 役に立った
- ③ どちらとも言えない
- ④ あまり役に立たなかった
- ⑤ 役に立たなかった
- ⑥ 不参加

Q5 今回開催したセミナーで、化学物質の内分泌かく乱作用について理解は深まりましたか。（回答数 88 無回答 4）



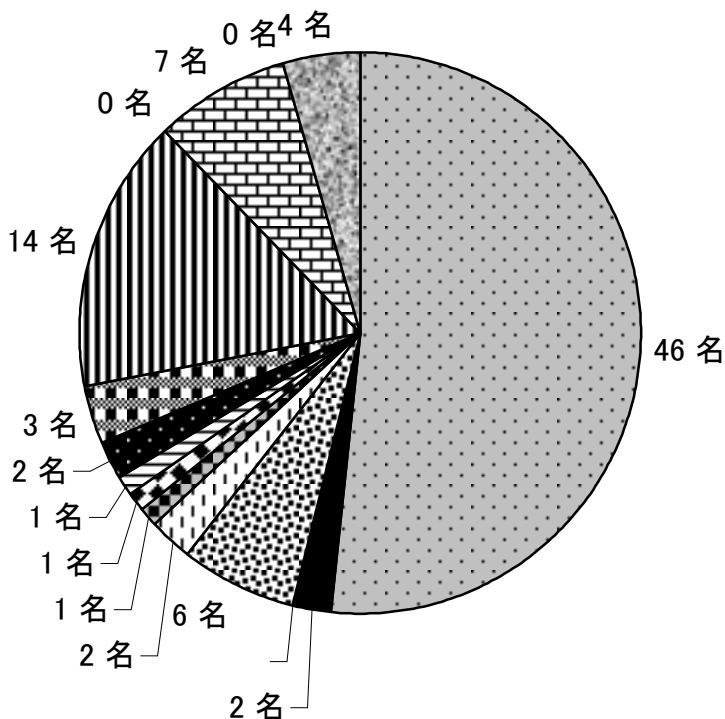
- ① 大いに深まった
- ② 深まった
- ③ どちらとも言えない
- ④ あまり深まらなかった
- ⑤ 深まらなかった

Q6 今回のセミナーの運営や対応はいかがでしたか。  
(回答数 89 無回答 3)



- ①非常に良かった
- ▨ ②よかった
- ③ふつう
- ▩ ④あまりよくなかった
- ▤ ⑤悪かった

Q7 本セミナーを知った経緯を以下からお選びください。  
(回答数 90 無回答 2)



- ①ホームページ
- 環境省
- その他(環境ホルモン学会)
- ②メールマガジン
- ▤ (環境省)
- ▨ (ケミマガ・ブリーフィング)
- ▩ (EICネット)
- ▨ (NITE)
- ▤ (POPsネットワークのメール)
- (無回答)
- ▤ ③業務上の取引先等からの紹介
- ▨ ④所属する業界団体からの紹介
- ▩ ⑤同業他社からの紹介
- ▤ ⑥知人・友人からの紹介
- ⑦新聞・雑誌
- ▨ ⑧その他

Q8 今回のようなセミナーについて、必要だと思いますか。

(回答数 90 無回答 2)

①はい	89名*
②いいえ	0名
③どちらでもいい	1名
(無回答)	2名
合計	92名

\* 「但し、内容による」との意見 (1名) を含む

Q9 今後、このようなセミナーが開催される場合、どのような内容を希望されますか。

(回答数 90 無回答 2)

①最新の知見についての発表	68名
②行政の取組等の説明	57名
③専門家等によるパネルディスカッション	20名
④海外の動向	39名
⑤その他	2名

⑤その他の記述内容

- ・ポスターセッションによる研究者との直接の議論
  - ・哺乳動物、特にヒトに対する影響についての基礎的及び最新の知見の紹介
  - ・優先第1：海外動向、情報公開
- 他